

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：青山悦子
(松江市立川津小学校)

編集：情報部

VOL.65 2019.3.3 (雛祭号)

発行責任者 蘿 恵 (志学中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>



【目次】

- ▶ 見えるものから見えないものへ (その2)
(益田教育事務所長 岡本昌浩)
- ▶ 研究部の取組
- ▶ 島事研セミナー参加者の感想
- ▶ 研修報告 (中国地区事務研究大会)
- ▶ 松江市立小中学校事務グループの取組
- ▶ 人権コーナー
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



見えるものから見えないものへ(その2)

益田教育事務所長 岡本 昌浩

「見えるものから見えないものへ」とは、今年度の7月に益田管内小中学校事務職員夏期研修会で話した講話のテーマです。

この中で、人間は目に見えるものに対しては安心する一方で、目に見えないものに対しては心配や不安の気持ちが生じて、無意識のうちに目に見えるもので判断しがちであると話しました。また、こうした思い込みを防ぐためには、現状をしっかりと把握したうえで、「どうしてこうした状況が生まれたのか」「これからどう変わっていくのか」など、過去と未来の両面から考えることが大切だと話しました。さらに、目に見える情報のもっている意味や値打ちを見出し、それを価値づけていくことは人間にしかできないこと、価値づけに正解はなく自分なりの納得解を探していくしかないとして講話をしめくりました。

こんなことを考えているときに、第49回島根県公立小中学校事務研究大会において、ESD(持続可能な開発のための教育)の著名な実践家である住田昌治校長先生の講演を聴く機会を得ました。講演には私が普段から感じていた問題意識とピタリと重なるような内容がたくさん含まれていました。たとえば、以下のようなことです。

- ・ 持続可能かどうかという視点から、自分なりに何ができるかを考えること
- ・ だれもが「関係性」の中で生きていることを認識し、行動を変容すること
- ・ 自分や組織の「当たり前」を見直すことが働き方改革につながる

こうした学びをもたらししてくれた本研究会に対して、改めて感謝したいと思います(大会関係者の皆様、本当にありがとうございました)。

先生も言われていたように、子どもたちが社会で活躍する2030年頃には現在の取組の評価が下されることでしょうか。それは学校も同じです。2030年頃の学校は今より働きやすい環境になっているでしょうか。教職員はやりがいをもって生き生きと働いているでしょうか。そうした職場をつくっていくためには、「目に見える」今の職場を改めてじっくりと見直し、課題を明らかにする。そして、今の自分たちができることを少しずつ実践しながら解決することを通して、「目に見えない」将来の職場づくりを教職員全体で取り組んでいくしかない。住田先生の講演を聴きながら、そんなことを考えていました。

「島事研ビジョン2015」のなかの「5 学校事務職員に求められる役割とめざす姿」には、「初期の決められた事務を処理する段階から、必要な事務を企画し創造できる段階に」進めるとあります。決められた事務は「見えます」が、創造する事務は「見えません」。しかし、このまだ見えない何かが将来を左右するのは確かです。これから事務職員の皆さんと一緒にこの見えない何かを考えていきたいと思ひます。持続可能な学校にするために・・・。

研究部 コーナー

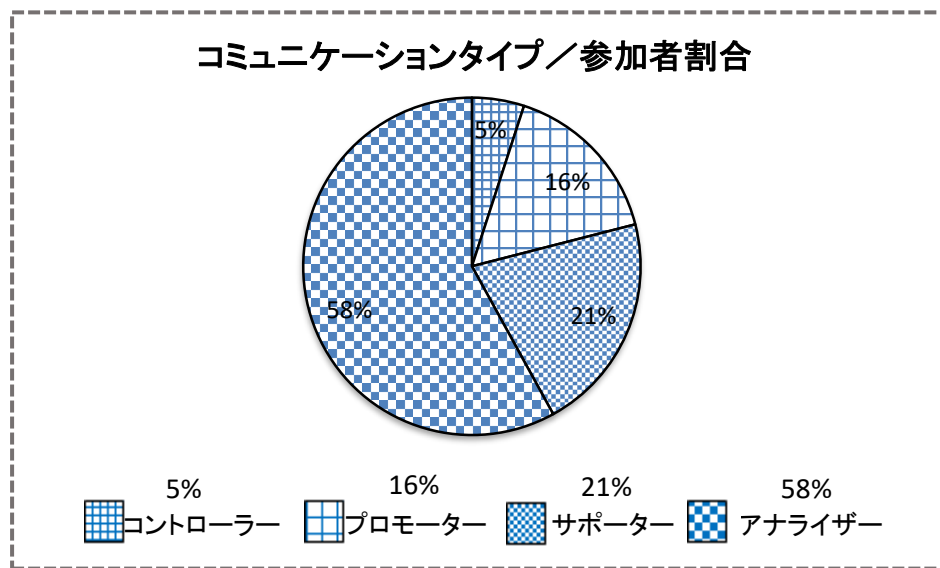
研究部 部長 岡田 由美

第49回島根県公立小中学校事務研究大会 楽しまねば Shimane★Ver.ワークショップ まとめ

11/14の県大会中間発表ではワークに参加していただき、またデータの提出に協力していただき、ありがとうございました。全国大会発表で活用させていただくために結果をまとめましたので、一部紹介します。全国大会発表に向けては、コミュニケーションタイプを通じて、自分の強みを生かした実践へのつながりについて研究部で提案します。またモニター地区の実践についても、コミュニケーションタイプに着眼し整理しまとめたものを紹介していきたいと考えています。

ワーク1. あなたのコミュニケーションタイプと職名に○をつけてください。

タイプ : コントローラー ・ プロモーター ・ サポーター ・ アナライザー
職名 : 主事 ・ 主任主事 ・ 主任 ・ 事務主幹 ・ 事務リーダー



ワーク2. あなたならどうしますか??

最近カラー印刷用のインクの消費が異常に早い。どうやら校長先生が頻繁にカラー印刷をしている様子。学校事務職員としては、限られた予算内で有効な使用をお願いしたい。その時に学校事務職員（あなた）は、どういう手段で校長先生に有効なカラー印刷使用を働きかけますか？

★アナライザー（冷静沈着に現状を分析）

○職名：事務主幹

モノクロ印刷、カラー印刷の費用を計算した資料を作る。校内の消耗品費に占める印刷費の割合を計算した資料を作る。資料をもとに校長に説明する。

○職名：主事

予算と印刷コストを提示する。インクカートリッジ（トナー）の単価を提示する。カラーじゃないと内容が伝わらないのかを聞く。全体に向けて節約を呼びかける。

★サポーター（合意と協調が何より大事）

○職名：事務主幹

校長先生の思いを優先し、予算のことも伝えながら、カラーを最低、何枚必要なのか話し合いで中間どころを見つけていく。

○職名：主任主事

初めは職朝などで全体に向けて声をかける。それでも・・・なら本人に角が立たないように雰囲気良く伝える。

★コントローラー（実行力でチームをリード）

○職名：主事

校長室だよりのような大量印刷のものは、カラー印刷をしないでほしいと直接伝える。納得のいく理由があれば、印刷してもらおう。



★プロモーター（夢を語って盛り上がる）

○職名：事務リーダー

「すごいのできましたね～」と言って、知らんぷりして、たよりに持って校長室に行く！「どのくらい印刷しているんですか？」と聞く。「白黒のきれいな印刷方法知ってますよ～。こんな感じでどうですか？」と白黒印刷したものを見せる。

★ミックス型 プロモーター・サポーター

○職名：主任

カラープリントについて、職員朝礼で全体に向けて話す（→3つ伝える）

◎カラーの必要がないものはモノクロで薄くしてください。

◎節約すると予算執行の幅が広がります。

◎わからないこと、相談は事務までお願いします。



事務リーダー（タイプ：サポーター）の方からいただいたシートの裏に、メッセージがありましたので、こちらで紹介させていただきます。

『熊丸先生のお話の中にあつた、別室から帰ってきた職員が職員室に残っていた事務職員に声をかけないという話。よくある話で、体験した分、寂しい話です。ですが、事務職員自らの働きかけも必要だと思います。「おかえりなさい」この一言を必ず私はかけます。そうすると言われた相手は必ず「帰りました」と言われます。付け加えて「お世話になりました」と言われる方もおられます。もう一歩！近づくコミュニケーションがとれるといいですね。』

いただいた内容は実務的なことではありませんが、全てにおいて自分が望む行動を得るためには、自分の方から、その行動を引き出す働きかけ・コミュニケーションをとっていくことが必要ということですね！



☆4つのコミュニケーションタイプは、ディスカヴァー・トゥエンティワン『図解コーチング流タイプ分けを知ってアプローチするとうまいく』 監修/伊藤守 著/鈴木義幸 から引用

第14回 島根県学校事務セミナー

期日;1月17日(木)

会場;パルメイト出雲

参加者の感想

< 講演 >

「次世代の学校づくりと業務改善 ～学校事務職員の機能と役割～」

講師; 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 久我 直人 教授

< グループワーク >

- 学校運営への参画って? ～可視化してみよう!!
- 業務改善したい自校の課題

【 講演 】

事務職員も教育目標が語れるようにと言われて、今まで意識していないことに気づきました。学校経営、運営に参画するためには、まず自分がそこに関心を持たないといけないなど反省しました。子供たちが健やかに育つための手伝いにもっと関わっていくために自分の目標を定めてやっていこうと思います。

次世代の学校づくりにあたっての役割を、いろいろと考えるきっかけになりました。子供の根本を変えることができれば、来年、再来年のその子の良い姿が見られるということ、何かの力になれば良いかなと感じました。教員の意識改革も、是非やっていきたいと思っています。

最近、仕事の負担が増えることや事務職員の役割が変わっていくことへの不安、ネガティブな気持ちもありましたが、すぐポジティブな気持ち、やる気になる気持ちにさせていただきました。

とりあえず、「やってみる」ということが私は一番苦手なので、聞いていてしんどかったのですが、今若副会長のおっしゃったとおりスイッチを押していただいた気がします。

【 グループワーク 】

“見える化”と“情報共有”と、自分を振り返ってみると、大切な2つのことがどちらも弱いことに気づきました。たくさんアイデアをもらえて、よかったです。

各自が取り組んでいることについて、他校の事務職員の取組を聞いて参考になった。各校の課題については、「あーそうだね。」と共感する部分がたくさんあった。日々いろいろと感じていることがあるのに、それを課題として捉え、それに向けて動くことをしていなかったなど少し反省した。「忙しいから、しなくていいや。」ではなくて、ちょっと時間を割いてでも整理整頓などをしてみるとういかなと思った。意識改革が重要。

もう少し時間が欲しかった。みなさん、いろいろな工夫をしておられ刺激を受け参考になりました。批判はなしで、いいところを伝え合う感じがイネ!

細かなことでも、みなさんいろいろな努力をしておられることがわかってよかった。参考になることもたくさんあったし、自校でもやってみようと思うこともあった。

【 全体をとおして 】

重点目標に沿って、効果的な予算執行のできる事務職員として、関わりができるようにになりたいと思いました。

久我先生のお話がとてもわかりやすかった。自分に必要なことや学校として必要なこと、全体をとおして考えることができてよかった。

業務・環境改善には、どうしてもお金や新しいシステムの導入が関わってくるので、県教委や地教委の人にも聞いて欲しい、参加してほしい内容だった。

平成30年度 中国地区公立小中学校事務研究大会

[期 日 ; 平成30年11月30日 (金) 会 場 ; 山口県健康づくりセンター]

参加報告者: 島事研情報部

文部科学省行政説明

子供たちの学びを支える事務職員への期待 ～新学習指導要領と働き方改革～

文部科学省初等中等教育局視学官 青木 隆一 氏

講 演

次世代の「教育・学校・地域」の実現に向けて -学校事務職員に求められる役割-

愛知教育大学教育学部 教育支援専門職養成課程

教育ガバナンス講座 准教授 風岡 治 氏



教育・学校・地域を取り巻く環境、グローバル化や情報化等により、変化が激しく予測困難な未来、新たな社会 (Society5.0) がやってくる。人生100年時代を迎え、マルチステージな生き方が必要になり、地方創生を目指す社会の実現が期待されている。そういう世の中で子供たちはこれからのことを考えていかなければならない。学校だけでそういったことを学んでいくことは難しい時代になっている。

最近の学校では「新学習指導要領」「働き方改革」がキーワードとなっている。これからの時代を生き抜いていく子供たちを育てるために、「次世代の学校・地域」創生プランも示されている。いろいろな専門性を持つ人に関わってもらいながら「社会に開かれた教育課程」の実現をしていかなければならない。学校事務職員はコミュニケーション能力を十分に発揮しながら教育活動と学校経営を結び付け、先生方とカリキュラムマネジメントを協働して考えていくことが大切である。校長のリーダーシップのもと事務機能の強化を図る体制に整え、積極的に校務運営に参画し、立案、調整、判断 (これまでなかった事案に意思決定できるか) していくというように「仕事の質の変化」が求められてきている。

愛知教育大学教育学部 教育支援専門職養成課程とは・・・ ?

風岡さんが教職についておられる愛知教育大学には、教員免許を取得するための「教員養成課程」、教育支援に関わる職を養成する「教育支援専門職養成課程」の2つの課程がある。学校の抱える課題は多様で複雑になっているため、教員以外の学校を支える人材育成を目的に設置されたのが教育支援専門職養成課程だ。教員を支援する、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育行政職員・学校事務職員などの育成をめざして、2017年に開設された。「心理コース」「福祉コース」「教育ガバナンスコース」の3つのコースがあり、教育ガバナンスコースは、学校で実際に働く事務職員などが講義に加わり学生たちに専門性の高い授業を展開している。授業では、学校の修繕をするために限られた予算をどのように割り振ればよいか、ということについてグループで話し合うなど、私たちが研修会でやっていることと同様の内容を学んでいる。

【全事研大会 (岡山大会) プレ発表】

- 岡山** 学びに環境(ステージ)を創る～未来を担う岡山っ子のために～
- 鳥取** 転機はここだった～「やってみよう!」から始まった事務職員の成長～
- 島根** ビジョン実現に向けて“楽しまねば Shimane★Ver.”～戦略の実効性を高めよう～
- 広島** 広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の創造
- 山口** いざ やまぐち維新! 学校経営ビジョン実現への第一歩～みんなの願いをかなえることができる事務職員へ～

平成30年度 松江市の事務グループ活動について

「松江市立小・中学校運営推進協議会（事務部）設置要綱」「松江市立小・中学校事務グループ組織運営要綱」は平成22年度に施行されました。これにより事務グループで連携・協働して（市内全校区で取り組んでいる）小中一貫教育の推進を中心に、学校事務の見直し・効率化による学校運営の充実、事務処理体制の整備・統一、グループ内学校の相互支援、事務職員の資質向上を進めるための活動等を行っています。

9年間で事務グループ会議等による事務グループごとの活動が定着し、事務職員の学校間の協力体制が整ってきました。リーダー会では、全体課題について回を重ね検討してきました。しかし、①事務処理方法が統一されていない。②グループごとで活動内容に差異がある。③世代交代が進んでいる。といったことから事務グループ活動を学校運営に生かすことが難しいという課題が見えてきました。

そこで平成30年度は、業務班を設置し、全体会（研修）と業務班の活動を中心にして、早期課題解決と個々のレベルアップ等の基盤づくりを行うこととしました。メンバーが同じ松江市教研学校事務部と連携して、合同研修等も行っていきます。（詳細は、島事研HPの各市町村の取組をご覧ください）

平成30年度の活動

松江市立小中学校事務グループだより 第14号
H30 .9月(事務グループリーダー会発行) より抜粋

平成30年度事務グループ活動のテーマ

「チェンジ！オール松江で事務をスムーズに展開する」

重点的に取り組むこと

- ・全体研修・全体会
- ・業務班を設置して、スピーディに事務改善を行う。全員で市全体に係る業務に積極的に取り組む。

事務グループ活動 取組の具体

- ①事務グループ全体【市教研事務部と共同で研修等を行うことも】
 - ・全体研修
 - ・全体会
 - ・業務班（市全体に還元できる取組）
- ②リーダー会

研修内容・テーマについて検討、計画作成
教育委員会との情報共有・交換・課題解決に向けての提案。各グループへ情報発信。
- ③各事務グループの活動

県費関係諸手続きの相互確認・グループ内の課題解決



子どもたちのためにも、働く自分たちのためにも、
事務グループ活動を活かしていく！

それぞれの学校で
事務職員の視点や手法で、
得意なことや、
また、新しいことにも
チャレンジして

各グループでの取組
■グループ内のチェック機能
で正確な事務処理
■グループで協働し、小中一
貫教育などを推進

経験に応じ、環境に
応じ、学校運営や
カリキュラムマネジメント
に携わる

市全体での取組
松江市の事務職員全体の力量形成と
わかりやすく伝わる松江市の学校事務の実施
松江市の学校事務の課題の把握・各種事務システムの開発
(メンテナンス)・研修の実施・事務の手引き(解説)の作成

8月21日 実務研修「扶養手当について・手当検
認振り返り」講師：教育事務所総務課

2学期にも2回研修を行う予定です。

9つの業務班を組織しました。全員がどれかの班に
入り、市全体のことに取り組みます。スピーディー
に事務改善を図るねらいです。

- 研修班…研修の計画、全体研修・初任者研修企画・運営
- 広報班…事務グループ便り・給料日だよりの発行など
- 校務支援システム班…備品管理システムの活用に向けて
- 市費・徴収金システム班…学校集金システムの検討など
- 給食事務班…給食人員報告システム作成など
- 服務関係班…服務関係様式・記入例作成
- 文書管理班…文書件名簿・受付要領の統一など
- 旅費班…旅費の請求事務を改善する方法を検討
- 学籍班…転出入関係の書類の統一を図る

各班から提案があった改善案
は、内容によってはリーダー会か
ら教育委員会・校長会・教頭会へ
提案・依頼します。

学校運営推進協議会（事務部）※敬称略

会長	副教育長 古藤浩夫
副会長	中学校長会代表 第二中学校 飯国弘巳 事務職員代表 第一中学校 勝部千恵 事務局代表 教育総務課長 杉谷 薫
委員	小学校長会代表 佐太小学校 柳野祐子 中学校教頭会代表 第一中学校 勝部 譲 小学校教頭会代表 母衣小学校 藤原利明 事務職員代表 島根中学校 福田美喜子
事務局	松江市教育委員会 学校教育課長 三賀森卓司 学校管理課長 藤原幸二 主管：市教委学校管理課

事務グループ全体会（研修）について

今年度第1回(6/27)は、活動概要についての説明・提案、

第2回(8/21)は、扶養手当・手当の検認に関する実務研修、

第3回(11/1)・第4回(12/14)は、働き方改革～業務改善のテーマで研修しました。

第3回は、研修班と市教研事務部で企画したマンダラート（アイデアを整理・具体化し、思考を深める発想法）を使って業務改善を考えるグループワークを行い、全事務職員が市内の学校の業務改善について考えました。

第4回は、職員室環境の改善から働き方改革を推進しておられる学校事務職員の上部さんを横浜市からお招きし、働き方改革と業務改善について研修しました。実際にどのように環境を改善していったかのお話をいただきました。実践されたことも紹介していただきましたが、むしろ「何のために働き方改革をするのか」、「なぜそれを進めようと思ったのか」、「どんな変化があったのか」、などの「思い」「気づき」の部分に特に焦点をあてていただきました。また、第3回のマンダラートを使用して研修を進めていただいたので、事務グループのメンバーが自分のこととして考えを深めることができました。

第3回業務改善について「マンダラート」



第4回「働き方改革→業務改善
～何を目標して 対話 多様性
巻き込む 創る～」

取り組んでみたいこと

職員の意見集約・反映

環境整備

環境改善

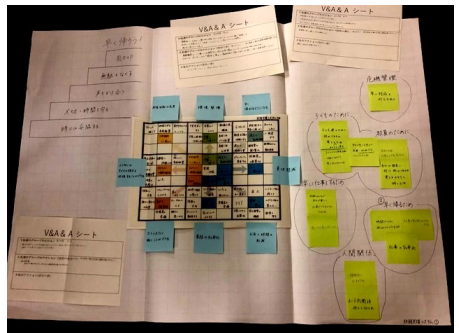
スケジュール（事務の週報）

コミュニケーション

（第4回研修を受けて）

気づいたこと・感想

- ・業務改善は目的ではなく手段！ということ
- ・「業務改善自体が業務を増やしている」という認識をもつ教員が多い中、その意識を変えるのは難しいが、事務職員としてできること（環境改善等）から始めたい
- ・「結果の質」ばかり求めるのではなく、「関係の質」をあげることに、そのためには「対話」をとことん繰り返すことが大切と言われたことが印象的でした。
- ・できるだけ抵抗感を無くし、何のために改革するのか、ということをもみんなが理解する必要がある。
- ・目的をもって今回考えた段階のように順序化することで実践しやすくなると思うので参考にしたいです。
- ・“業務改善をはかるためには、教職員同士の対話を活性化し、その内容を仕入れること”とお話されたことが印象的でした。



第4回 第3回のマンダラートも活用した

学び続けること、自分で考えること、結果の質ではなく関係の質を高めることを松江市の事務グループ活動も大切にしていきたいと考えています。

今後の事務グループ活動について（事務職員が校内・事務グループ・市内で連携を進めるために）

松江市立小・中学校運営推進協議会（事務部） 会長 古藤浩夫

（松江市教育委員会 副教育長）

松江市では学校図書館教育推進のために教育委員会内に「学校図書館支援センター」を設置し、学校図書館教育に関する説明会や研修会等を開催しています。テーマによっては学校図書館司書（以下、「司書」）だけでなく司書教諭や管理職も対象としており、司書が校内で他の教職員と有効に連携して活動できるように支援を行っています。松江市の特色ある教育を推進していく上で、大きな成果を挙げていると受け止めています。

学校事務職員の効果的な職務遂行については、全ての管理職がその必要性を理解していると思います。しかし、それを校内で有効に実践できる具体的手法を持っているか、或いはそれができているかと問われれば、まだ不十分とお考えの方も多いのではないのでしょうか。その原因を一つに限定することはできないと思いますが、やはり事務職員に関する法制上の変化や配置形態の変化等に対する理解不足がその大きな要因ではないかと思えます。学校図書館教育がここ10年で全体的かつ劇的に進んだことを考えると、学校事務職員の“可能性”が当事者たちの努力にも拘わらず学校現場で十分引き出されていない（と思われる）ことは大きな課題だと感じます。一朝一夕に実現できないとは思いますが、「支援センター」等の設立やコーディネーターの配置、或いは「同じ釜の飯を食う」が如く「同じテーブルで話し合う機会」を増やしたりすることで意識の共有化が進み、事務職員が活躍する場は増えるのではないかと思います。そうした意味で、学校事務に関しても学校図書館教育と同様なシステムが構築できないか、一考の余地はあると感じています。研修会等が増えることについては異論もあるでしょうし、早晩に「支援センター」を開設できないだろうとも思いますが、市教委としてどのように具体的支援ができるか、管理職や事務職員の皆さんと積極的かつ継続的に議論していくことが肝要と考えています。

